

梅原郁編訳、朱熹編「宋名臣言行録」ちくま学術文庫、筑摩書房、2015年12月10日刊を読む

1. (1) 唐中期から五大に至る長い武人跋扈(ばっこ)に終止符を打った、宋の太祖が、武官、科挙官僚中心の方向を明確にする有名なエピソード。
(2) 「宰相は読書人たるべし」とある。
(3) 「読書人」はこれ以後、二十世紀まで一千年間、支配階級の中心になる。
2. (1) 「読書人」つまり、高度に読みかつ書くことのできる人間は、一般には「士大夫(したいふ)」と呼ばれる。
(2) 「士大夫」は、幼児より、十数種類の儒教の経典(けいてん)を、隅から隅まで暗誦し、詩と文を作る訓練をくりかえし、司馬遷(しばせん)の「史記」をはじめとした歴史書や数多くの古典に通暁しなければならなかった。
(3) さもなくば、決して「科挙」の試験に合格できないからである。宋代以後、中国の最高官僚は、行政や財政、あるいは、法律の専門家であるよりも、まず、総合的な、かつ、極端に教養主義的で博学 一但し、今のことばでいえば、人文科学が中心だが一な人間であることが要求された。
3. (1) 軍人に政治を任せることなどは、最初から論外であり、また、単なる専門知識だけの持ち主にも、大臣・宰相は任せられぬ。
(2) そうした社会通念は、現在でも中国でなくなったとはいえ、ある点では、そのことは、我々も十分見直す必要があると思われる。
(3) 自然科学、技術改革の極度の進歩と、それに反比例した哲学をはじめとした、人文学、人間の精神の学問の衰退は、やがて、人類をこころのないロボットの集まりと化する危険なしとしない。

P57 ~ 58

<コメント>

唐の繁栄を学び、当時、世界最高の文明国を築き上げたのが、宋の人文政治。その基本中の基本が、仁徳すぐれた「読書人」の養成でした。これからの時代を背負う現代のリーダーに求められる資質も、「読書人」であると考えます。「読書の重要性」を、ぜひ塾生の皆様に、お伝えください。

2025年1月2日(木)